# 令和6年度
# 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
## キックオフミーティング　資料

活動団体の活動におけるテーマ

**陸の孤島の歴史が育むエネルギー自給を中心とした地域循環共生圏づくり**

活動地域　　：北海道石狩市浜益区
活動団体　　：浜益地域循環共生圏推進協議会
「続ふかんば」
中間支援主体：NPO法人ezorock

# 活動団体と地域の紹介

【地域の紹介】

石狩市浜益区は、札幌市中心部から車で約90分程度の距離に位置する厚田区の北端からさらに北へ約30km、雄冬岬に至るまでの海岸に沿った地域。平成17年の合併（石狩市・厚田村・浜益村の１市２村）以前は、浜益郡浜益村といい、江戸時代からの古い歴史を持つ。幕末には荘内藩（現在の山形県鶴岡市を拠点）が陣屋を構える北方警備の拠点となり、その後、明治から昭和初期にかけてはニシン漁の千石場所として栄え、一時は人口8000人いたといわれる。ニシン漁が終わり人口が減少し、現在では人口約1100人程度となっている。

まちの産業の中心は１次産業で、特に良質な米の生産やサケやニシン、ホタテ・ウニ・タコ・ナマコなどの漁業が盛んである。また、果樹栽培も盛んであり、北海道最古の果樹園のひとつがある。道路が整備されていなかった時代では主な交通手段は船であったため、陸路を行くには、南は濃昼山道、北は増毛山道という険しい道を行かなければならず、かつては「陸の孤島」とも呼ばれていた。

# 活動団体と地域の紹介

【地域の現状】

石狩市浜益区は、昭和 35 年から平成 27 年にかけての期間に人口の 76.2%が減少するなど急激な少子高齢化が進んでいる。北海道の過疎地域に指定されており、地域の持続的発展のために住民と行政による検討が重ねられている。浜益区地域協議会では、住民が主体となりながら高齢者に優しいまちづくりや地域おこし協力隊及び集落支援員、またエネルギー供給の強靭化についてなど、地域固有の課題に対応するための議論が行われている。これらの取り組みは、地域の実情に即して、地域住民や関係者との意見交換を通じて進められている。

一方で、浜益区では、区における担い手不足等の課題に目を向け、移住者の受け入れ体制の整備や、関係人口の創出の拡大に取り組んでいる。令和 2 年6 月に施行された特定地域づくり事業協同組合制度を利用し、令和 4 年には「浜益特定地域づくり事業協同組合」が設立された。深刻な担い手不足に悩む複数の産業、事業者が協働し、地域内の様々な仕事を組み合わせることで、季節ごとに働き手（マルチワーカー）を派遣している。

【活動団体の紹介】

市民団体「浜益・自然に学ぶ会」（ふかんば）は、1988 年 12 月に人と自然の共生及び地域に根差した仕事づくりを目指して設立。約 2 年間で 18 号まで機関紙「ネットワーキング浜益」を刊行し、その後活動を休止。以降、浜益地区内で地域づくりに関する様々な活動が行われてきたものの、自然との共生を切り口に多セクターが連携した取組みは展開されてこなかった。そのため本事業をきっかけに、世代を超えた新たな協議会を設置した。

これまでの浜益の歴史を踏まえながら、地域循環共生圏の推進を図る。本事業においては「ネットワーキング浜益」の再録・普及を行い、本誌にて掲げられた市民団体「浜益・自然に学ぶ会（ふかんば）」の基本構想を広く伝え、協働する主体内で共有されることにより、地域の環境・経済・社会への貢献と、ローカル SDGs 事業の実現を目指す。

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域内外に多様な形で関わる人々と共に「陸の孤島」である地理的条件が
育んできた浜益の文化と自然を生かし、エコツーリズムの促進や
新たな産業の創出するサステナブルな暮らしのモデル構築を目指す

### 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

①関係人口を受け入れ、地域の担い手として協働する仕組みづくり

②「ネットワーキング浜益」を再編し、取り組み状況と併せて情報発信を行うことで地域内の機運を高める

③地域内で生まれようとする事業に対して専門家のマッチングや担い手確保等サポートする体制づくり

### ローカルSDGs事業として取り組む内容

①豊富な水資源を活用した、小水力発電事業の創出

②バイオマス資源の活用やバイオ炭等、脱炭素事業の創出

③地域資源を活用したサステナブルツーリズムプログラムの開発

## 地域の現状

急激な少子高齢化が進み、現在人口は約1000人、高齢化率約60％であらゆる分野で担い手不足が深刻である。一方、昭和46年に国道が開通するまで主な交通手段は船、陸路は険しい山道を通らなければならなかった厳しい地形を持つ。その地形の影響もあってか豊かな自然環境が残されている。

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制

ネットワーキング浜益の刊行

集落の活性化

地域エコツーリズムの開発

脱炭素化事業の推進

**地域連携**

- 浜益観光まちづくり推進協議会
- 石狩市浜益支所
- 浜益幌果樹組合
- こがね山岳会
- 浜益「千本ナラ」巨樹・巨木保全協議会
- 浜益わかもん会

**コアメンバー**

- 浜益地域循環共生圏推進協議会「続ふかんば」

**中間支援**

- NPO法人 ezorock

**事業・活動の連携**

- NPO法人北海道グリーンファンド
- 一般社団法人徳島地域エネルギー
- 公益財団法人北海道環境財団
- 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

マンパワー、担い手不足、協働意識の醸成、多セクターが連携した取組み・体制、
地域資源を再評価する仕組み、地域資源を活かした事業

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

①ふかんばの基本構想を軸にした事業が創出され、実践している

②開発された地域エコツーリズムを継続して実施していくための運営体制が整っている

③脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源を活用した事業が開始されている

## 2025年度末の状態目標

①勉強会を実施し、ふかんばの基本構想への理解が深まり 、事業創出に向けた機運が高まっている

②地域エコツーリズムの開発を進め、事業化に向けた運用体制構築を進めている

③脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源を活用した事業の試験的運用を進めている

## 2024年度末の状態目標

①機関紙「ネットワーキング浜益」の読み解き・再録冊子を配布することによって、ふかんばの基本構想(*1)が地域内に周知されている

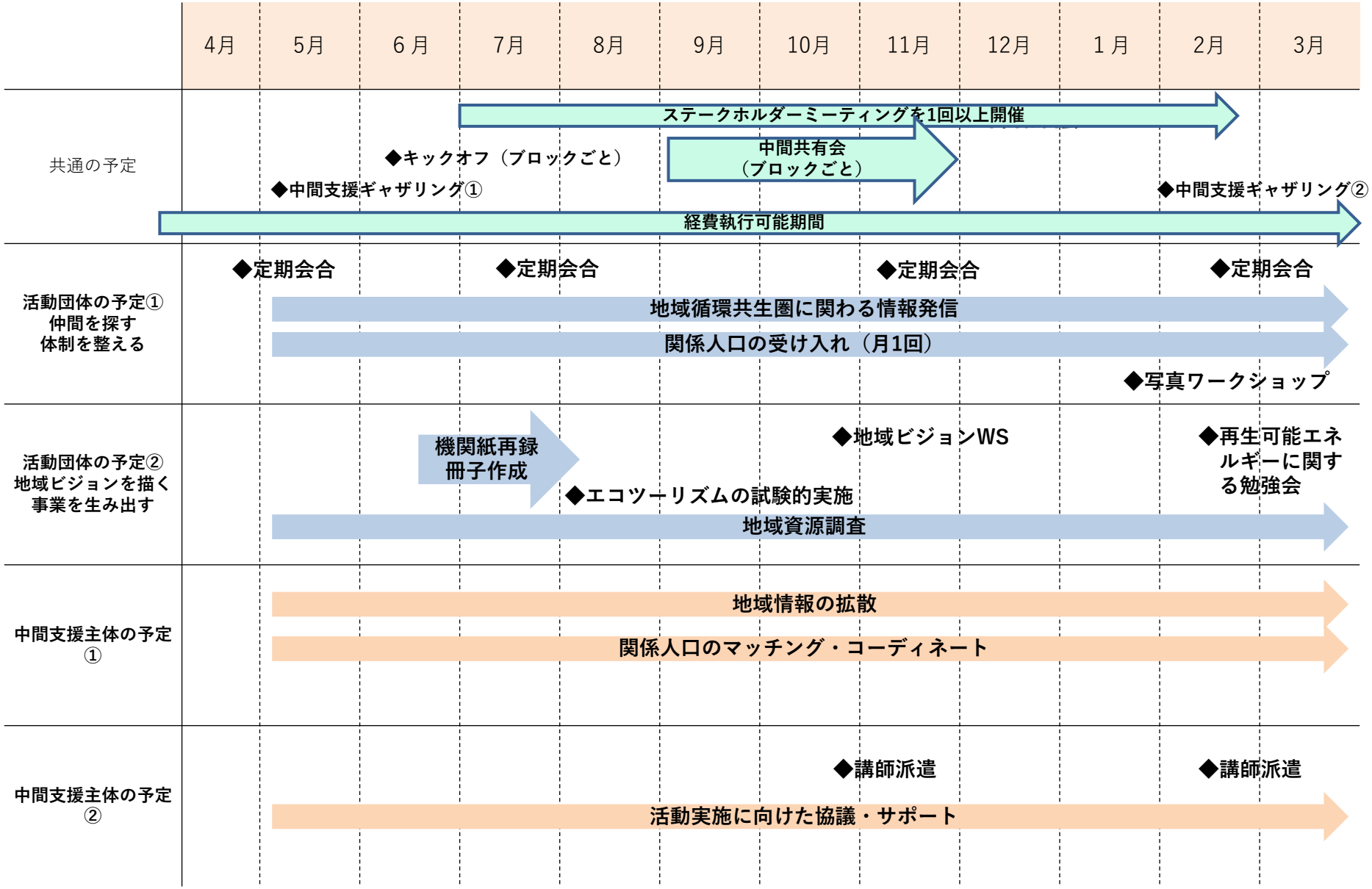
②地域エコツーリズムの開発に向けた試験的なプログラム実施を進めている

③脱炭素化事業推進に向けて、浜益の自然資源・地域資源の調査や勉強会を実施して理解が深まっている

◆ふかんばの基本構想(*1)

「自然との共生方法の模索」「自然から学ぶ生き方の提案」「新たな地域資源の発見と流通構築」「創造的な仕事の開発」

# 活動計画


4月
5月
6 月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1 月
2月
3月
共通の予定
ステークホルダーミーティングを1回以上開催
中間共有会
（ブロックごと）
◆キックオフ（ブロックごと）
◆中間支援ギャザリング①
◆中間支援ギャザリング②
経費執行可能期間
活動団体の予定①
仲間を探す
体制を整える
◆定期会合
◆定期会合
◆定期会合
◆定期会合
地域循環共生圏に関わる情報発信
関係人口の受け入れ（月1回）
◆写真ワークショップ
活動団体の予定②
地域ビジョンを描く
事業を生み出す
機関紙再録
冊子作成
◆地域ビジョンWS
◆再生可能エネルギーに関する勉強会
◆エコツーリズムの試験的実施
地域資源調査
中間支援主体の予定①
地域情報の拡散
関係人口のマッチング・コーディネート
中間支援主体の予定②
◆講師派遣
◆講師派遣
活動実施に向けた協議・サポート

# 中間支援主体より

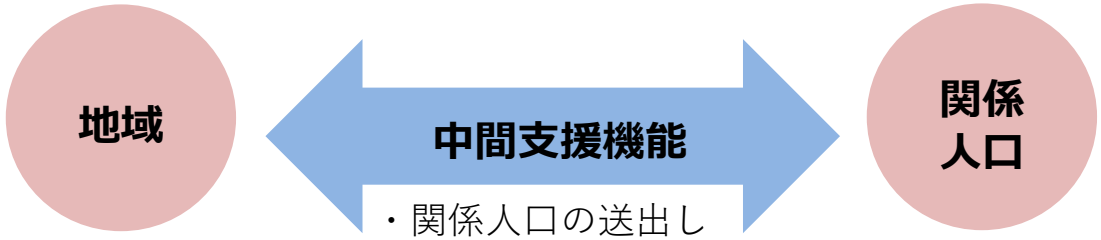
## 中間支援主体の紹介

Rising Sun Rock Festivalのごみ問題をきっかけに設立。若者(主に18歳～30代)が主体的に、環境問題や地域づくりに関わる活動を展開し、年間2000人以上が参加。石狩市浜益区では2010年頃より活動を開始。2019年には、空き家を改築し、若者が地域づくりに参加するための滞在拠点「浜益ベース」開設。年間延べ200人を超える若者が関係人口として滞在しながら地域住民と密接に関わりながら地域づくりを展開。

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

・慢性的に担い手が不足しており「地域住民」＋「関係人口」が協働していく必要がある
→地域の外部との繋がりを作るため、さっぽろ圏内等から関係人口（マネジメントに関わる中核人材を含む）を送り出し、繋がりづくりを促進する

・住民の多くはサステナブルな暮らしの視点で地域を捉え直す機会は少なく、地域、活動団体内でも共通認識が取れていない
→地域住民と関係人口との間に立ち、双方のニーズに寄り添いながら関係構築を行う




・関係人口の送出し
・住民と関係人口の主体性を引き出すコーディネート
・地域のエネルギー自立に向けた知見の集約

他の過疎地域にも展開できる中間支援のモデル構築を目指す